

岩手山の火山活動解説資料（平成 26 年 5 月）

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

2013 年には、火山性地震が一時的にやや多くなることもありましたが、今期間、火山活動は低調に経過しており、噴火の兆候は認められません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2-①）

柏台（黒倉山山頂の北約 8 km）に設置してある遠望カメラによる観測では、黒倉山山頂から 10 m の噴気を観測しましたが、岩手山山頂と大地獄谷の噴気は観測されず、噴気活動は低調に経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 2-②～⑤）

2013 年には、火山性地震が一時的にやや多くなることもありましたが、今期間は少ない状況で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 3、図 4）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

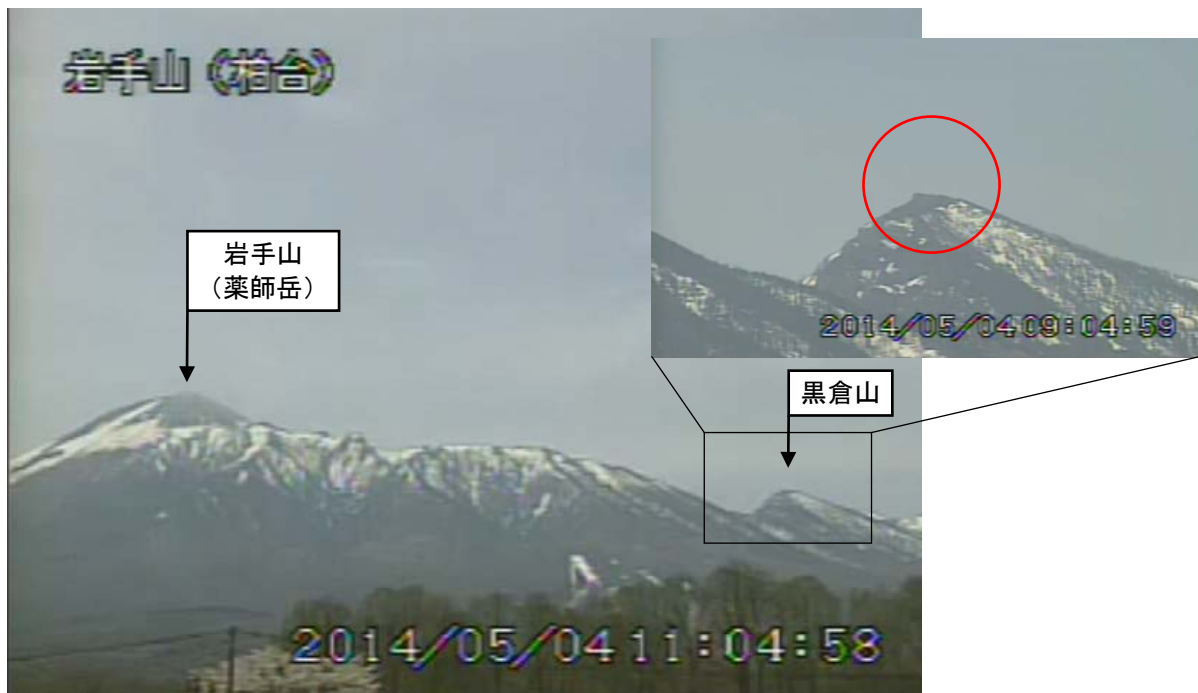


図 1 岩手山 東岩手火山と西岩手火山の状況（5 月 4 日）

- ・ 柏台（黒倉山山頂の北約 8 km）に設置してある遠望カメラの映像で、右上が黒倉山の山頂部を拡大した映像です。
- ・ 実線赤丸で囲んだのが、黒倉山山頂の白色噴気で高さ 10m です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 6 月分）は平成 26 年 7 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。

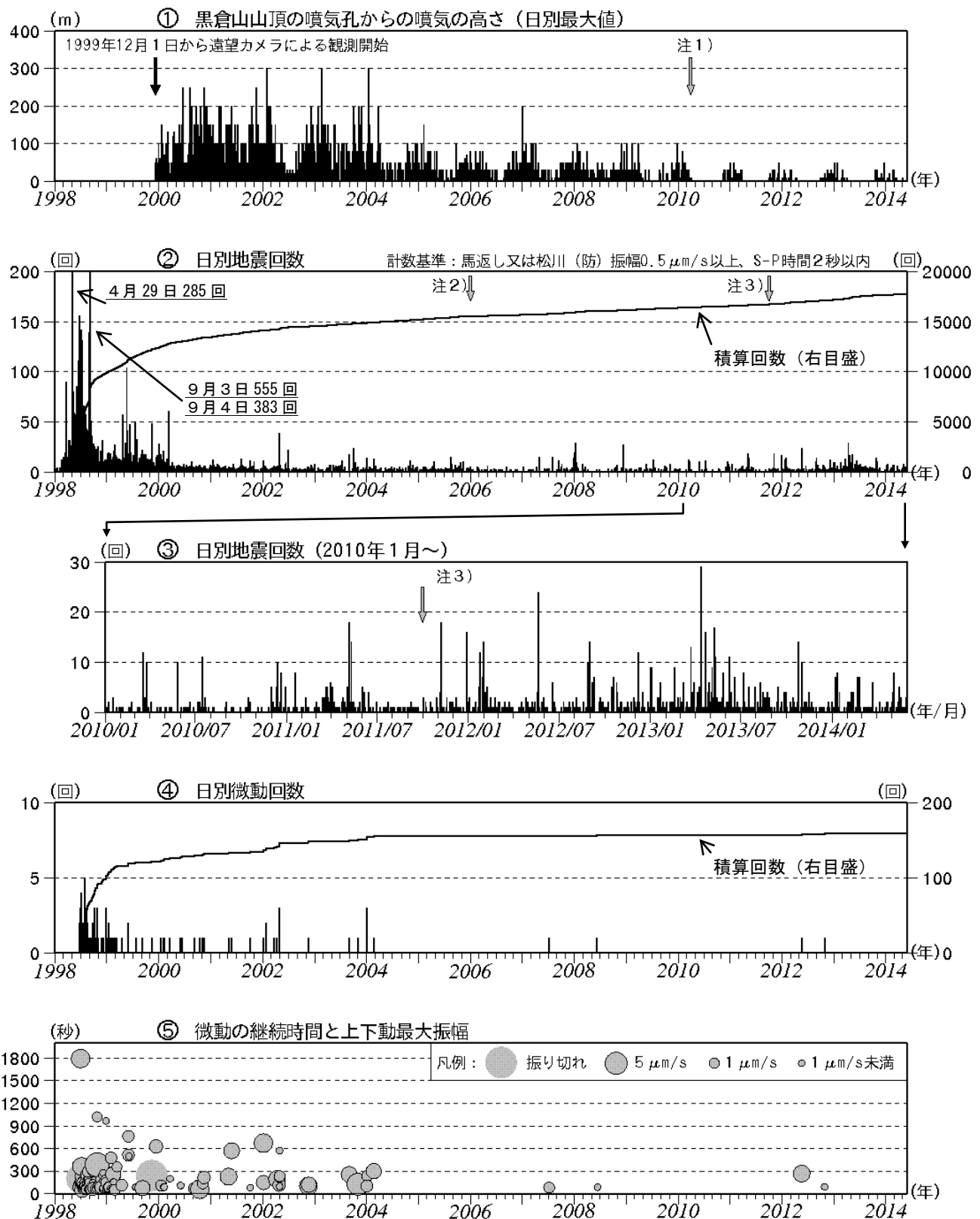


図2 岩手山 火山活動経過図（1998年1月～2014年5月）

- ・①注1）2010年3月までは黒倉山のみの観測を、2010年4月1日以降は岩手山全体を観測しています。
- ・②～⑤基準観測点の変更は次のとおりです（角カッコ内は地震回数の計数基準）。
観測開始 1998年1月1日～東北大学松川観測点〔振幅 $1.0\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内〕
注2） 2006年1月1日～焼切沢観測点〔振幅 $0.5\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内〕
注3） 2011年10月1日～馬返し観測点、及び防災科学技術研究所松川観測点〔振幅 $0.5\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内〕
- ・②③2000年1月以降は滝ノ上付近の地震など山体以外の構造性地震を除外した回数です。（1998年から1999年までは滝ノ上付近の地震など山体以外の構造性地震も含みます）

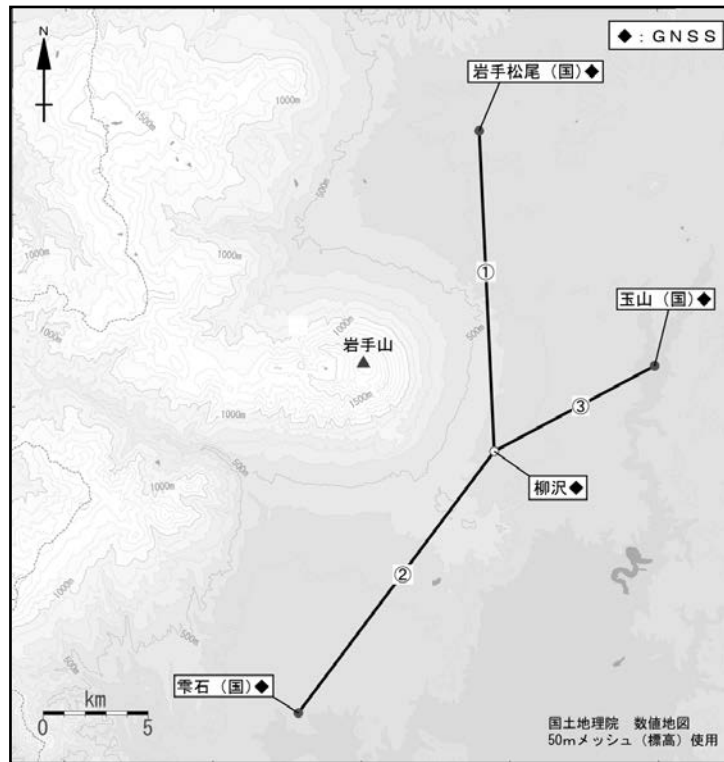


図3 岩手山 GNSS¹⁾ 観測点配置図

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院

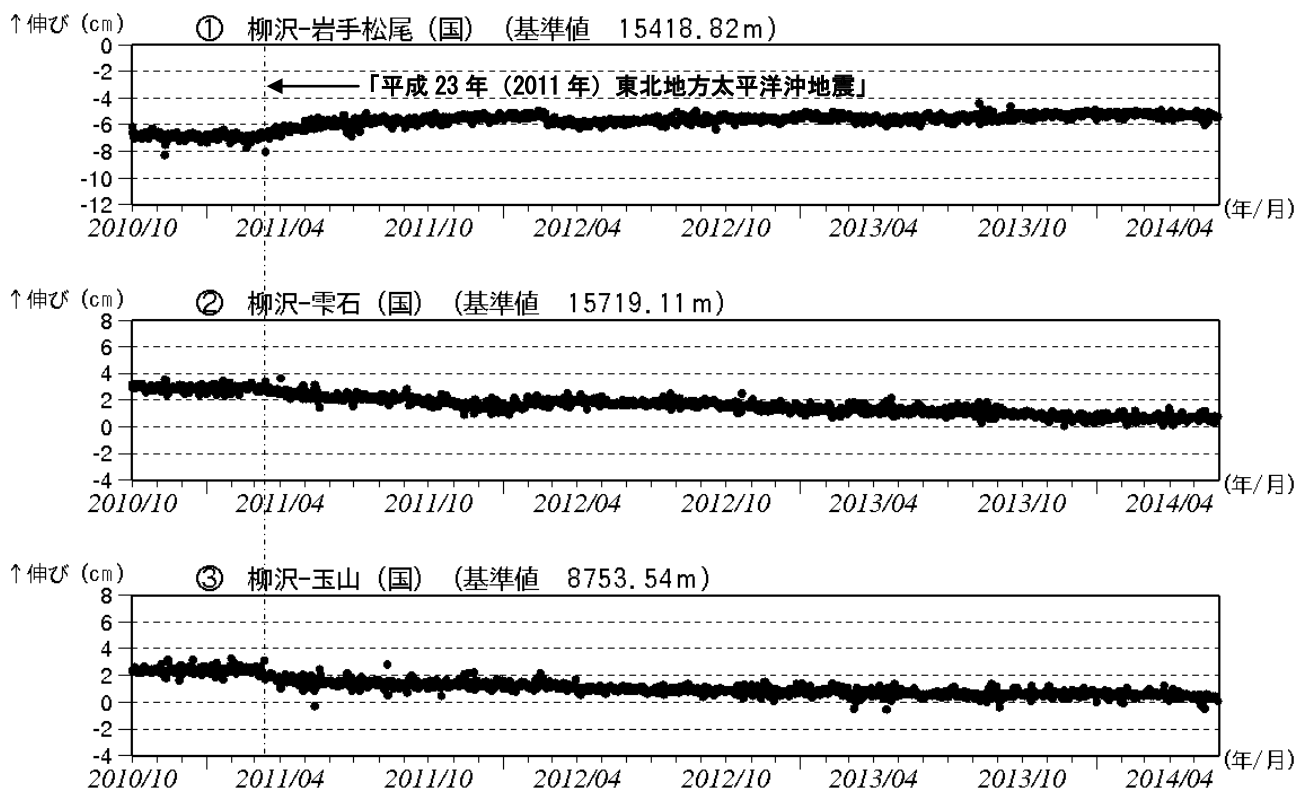


図4 岩手山 GNSS 基線長変化図 (2010 年 10 月～2014 年 5 月)

- ・ 2011 年 3 月 11 日以降の変動は、「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」による影響で、火山活動によるものではないと考えられます。
 - ・ 「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
 - ・ ①～③は図3の GNSS 基線①～③に対応しています。
 - ・ 各基線の基準値は補正等により変更する場合がありますが、最新の値のみ表示しています。
- (国) : 国土地理院

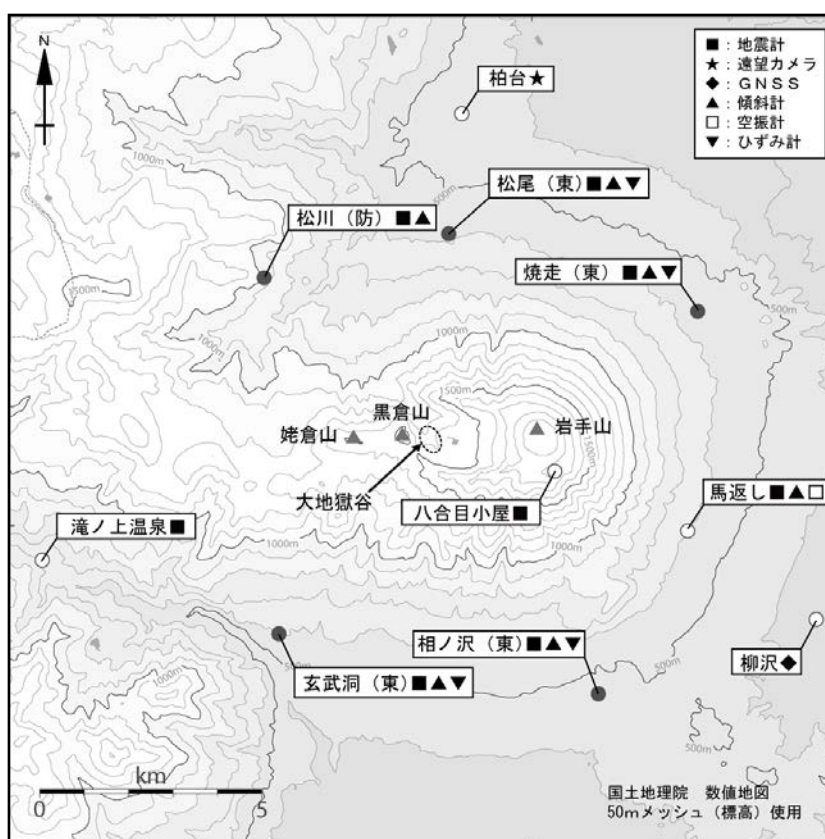


図5 岩手山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所